

全体	目次	前回	次回	略解
----	----	----	----	----

更新 Time-stamp: "2004/06/09 Wed 11:20 hig"

## quiz 略解 9

1.

$$\mathbf{v}(t) = \frac{d\mathbf{r}}{dt}(t) = \begin{pmatrix} 6t \\ 3t^2 \\ -2 \end{pmatrix}, \mathbf{a}(t) = \frac{d^2\mathbf{r}}{dt^2}(t) = \begin{pmatrix} 6 \\ 6t \\ 0 \end{pmatrix} \quad (82)$$

2. 速さを  $v(t)$  とすると,  $f(t) = v(t)^2 = (6t)^2 + (3t^2)^2 + (-2)^2$ . これ  
が最小になる時刻を求める. 微分して  $\frac{df}{dt}(t) = 72t + 36t^3$ . 増減表を  
書くと,  $t = 0$  で最小.

3.  $\mathbf{v}(0) = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ -2 \end{pmatrix}, \mathbf{a}(0) = \begin{pmatrix} 6 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ . 速度, 加速度と言ったらベクトルです.

**夏のプチテストやります!** 06/23(水) です. 科目の成績 100 点のうち 25  
点分. 範囲などは掲示参照. なお, ファイナルトライアルは 07/28(水).

## 7. 運動方程式と積分

香中 3 章

### 先週のメッセージ

$$\boxed{\text{位置 } \mathbf{r}(t)} \xrightarrow{\text{微分}} \boxed{\text{速度 } \mathbf{v}(t) = \frac{d\mathbf{r}}{dt}(t)} \xrightarrow{\text{微分}} \boxed{\text{加速度 } \mathbf{a}(t) = \frac{d^2\mathbf{r}}{dt^2}(t)}$$

$$\lim_{\Delta t \rightarrow 0} \frac{\Delta \mathbf{A}}{\Delta t} = \frac{d}{dt} \mathbf{A}(t) = \begin{pmatrix} \frac{dA_1}{dt}(t) \\ \frac{dA_2}{dt}(t) \\ \frac{dA_3}{dt}(t) \end{pmatrix} \quad (83)$$

### 7.1 積分は微分の逆

戸田 1-3

変数  $t$  の関数  $f(t), F(t)$  が,

$$\boxed{\frac{dF}{dt}(t) = f(t)} \quad (84)$$

を満たすとする (例えば, 位置  $x(t) = F(t)$ , 速度  $v(t) = f(t)$ ). このとき,

$$\int f(t)dt = F(t) + C. \quad (85)$$

•  $f(t)$  は  $F(t)$  の (1 階) 微分, 57

•  $F(t)$  は  $f(t)$  の (不定) 積分, 58

という.

物理系 (?) では,

$$\int dt f(t) \quad (86)$$

という書き方もある. べつにいいでしょ?

$F(t)$  が  $f(t)$  の不定積分なら, 任意の定数  $C$  に対して,  $F(t) + C$  も不定積分. この定数  $C$  を積分定数という.

**積分の計算法**

香中 p.50

微分積分 p.75

- $\int t^n dt = \frac{1}{n+1}t^{n+1} + C$  ( $n \neq -1$ ).
- $\int t^{-1} dt = \log |t| + C$ .
- 三角関数の積分
- 指数関数の積分
- 置換積分 (変数変換)
- 部分積分
- 公式集を見る
- いろんな超絶技巧

**7.2 速度の積分は位置**

位置  $\mathbf{r}(t) = \begin{pmatrix} x(t) \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ , 速度  $\mathbf{v}(t) = \begin{pmatrix} v_1(t) \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$  に対して,

$$v_1(t) = \frac{dx}{dt}(t) \quad \text{だから} \quad x(t) = \int v_1(t)dt + C = \int \frac{dx}{dt}(t)dt + C \quad (87)$$

位置

$x(t)$

微分  
→

積分  
←

速度

$$v_1(t) = \frac{dx}{dt}(t)$$

## 例題 14

1. 物体の速度が  $v_1(t) = t^2 - \sin(2t)$  である. また,  $x(0) = 2$  である.  $x(2\pi)$  を求めよう.
2. 物体の速度が  $v_1(t) = \frac{1}{t} - \cos(\pi t)$  である. 最初  $t = 1$  から 最後  $t = 2$  までの座標の変位  $\Delta x = x(2) - x(1)$  を求めよう.

$x(0) = 2$  のような条件を, 59 を用いて決めることができる.

という. 積分定数は, これ



## 7.3 速度の定積分は変位

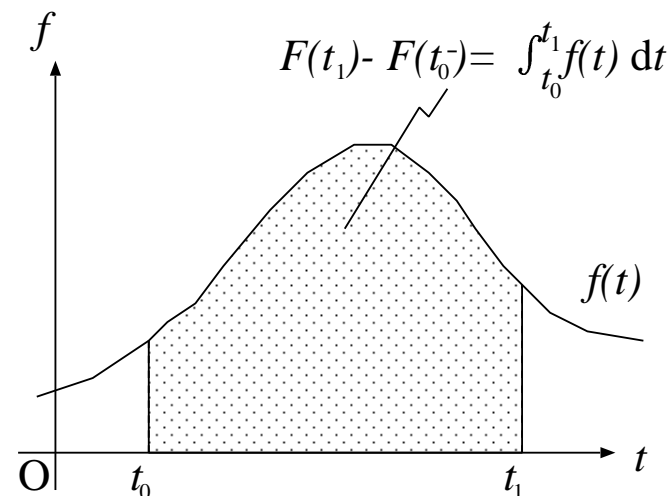
香中 p.64

微分積分 3-1

$$F(t) = \int f(t)dt + C \quad (93)$$

のとき,

$$F(t_1) - F(t_0) = \int_{t_0}^{t_1} f(t)dt \quad (94)$$



を定積分という。これは、 $f(t)$  のグラフと  $t = t_0$ ,  $t = t_1$  で囲まれる部分の面積。

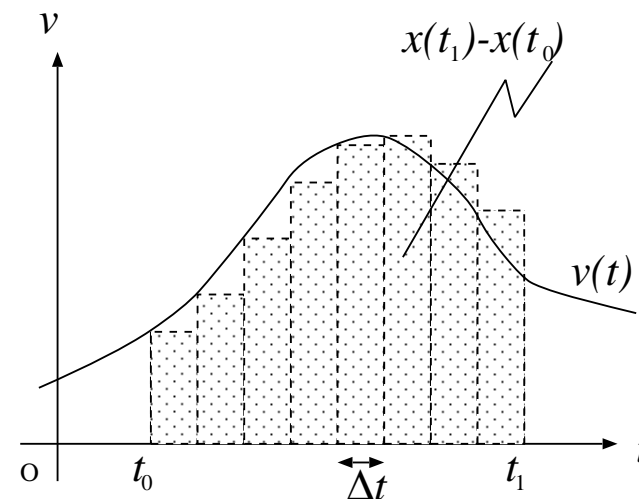
$F(t_1) - F(t_0)$  のことを,

$$F(t_1) - F(t_0) = [F(t)]_{t_0}^{t_1} = [F(t)]_{t=t_0}^{t=t_1} = F(t)|_{t_0}^{t_1} = F(t)|_{t=t_0}^{t=t_1} \quad (95)$$

などと書く流儀があるけど、ただの好み。

$t = t_0$  から  $t = t_1$  までの  $x$  座標の変位は

$$x(t_1) - x(t_0) = \int_{t_0}^{t_1} v_1(t) dt \quad (96)$$



のように定積分で表わせる.

左辺を  $t_1$  で微分すると,  $\frac{dx}{dt_1}(t_1) - 0$ . 右辺を  $t_1$  で微分して公式

$\frac{d}{dt} \int_{t_0}^t f(s) ds = f(t)$  を使うと,  $v(t_1)$  であり, 等しい. また, 式 (96) の両辺は  $t_1 = t_0$  のとき確かに等しい.

- 定積分には積分定数は出てこない.
- $f(t)$  のグラフが  $t$  軸の下に行くと負の面積になる.



## 速度から位置を求める 2 つの方法

けっきょくは同じことだけど.

$$x(t) = \int v_1(t) dt + C \quad \text{不定積分. 積分定数 } C \text{ は初期条件から決定.} \quad (97)$$

$$x(t_1) = x(t_0) + \int_{t_0}^{t_1} v_1(t) dt \quad \text{定積分. } t = t_0 \text{ で } x = x(t_0) \text{ が初期条件.} \quad (98)$$

例題 14 の 1 を 2 番目の方法でやってみると,

$$62 = 2 + \left[ \frac{1}{3} t^3 + \frac{1}{2} \cos(2t) \right]_0^{2\pi} = \dots \quad (99)$$

## 7.4 速度ベクトルの積分は位置ベクトル

時刻  $t$  の位置ベクトルを  $r(t)$  とすると, 速度ベクトル  $v(t)$  は

$$v(t) = \frac{dr}{dt}(t), \quad \text{すなわち} \quad \begin{pmatrix} v_1(t) \\ v_2(t) \\ v_3(t) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{dx}{dt}(t) \\ \frac{dy}{dt}(t) \\ \frac{dz}{dt}(t) \end{pmatrix} \quad (100)$$

で与えられるのだった. したがって逆に,

$$x(t) = \int v_1(t) dt + C_1, \quad (101)$$

$$y(t) = \int v_2(t) dt + C_2, \quad (102)$$

$$z(t) = \int v_3(t) dt + C_3. \quad (103)$$

$C_1, C_2, C_3$  は積分定数. これをまとめて, 次のようにかく (ベクトル値関

数の積分).

$$\mathbf{r}(t) = \int \mathbf{v}(t) dt + \mathbf{C}. \quad (104)$$

### 7.5 加速度ベクトルの積分は速度ベクトル

同様に加速度ベクトル  $\mathbf{a}(t) = \begin{pmatrix} a_1(t) \\ a_2(t) \\ a_3(t) \end{pmatrix} = \frac{d\mathbf{v}}{dt}(t) = \begin{pmatrix} \frac{dv_1}{dt}(t) \\ \frac{dv_2}{dt}(t) \\ \frac{dv_3}{dt}(t) \end{pmatrix}$  より,

$$v_1(t) = \int a_1(t) dt + D_1, \quad (105)$$

$$v_2(t) = \int a_2(t) dt + D_2, \quad (106)$$

$$v_3(t) = \int a_3(t) dt + D_3. \quad (107)$$

よって  $\mathbf{v}(t) = \int \mathbf{a}(t) dt + \mathbf{D}. (\mathbf{D} = \begin{pmatrix} D_1 \\ D_2 \\ D_3 \end{pmatrix} \text{は積分定数}) \quad (108)$

## 7.6 ニュートンの運動方程式 (運動の第 2 法則)

香中 p.30

物体の加速度ベクトル  $a(t) = \frac{d^2 r}{dt^2}(t)$  は, 物体の受ける **力** ベクトル  $F(t)$  で決まる.

加速度ベクトルの向き: **力  $F(t)$**  の向きと同じ.

加速度ベクトルの大きさ: **質量  $m$**  に反比例, 力  $F(t)$  の大きさに比例.

63

(109)

これを **ニュートンの運動方程式** という.

**質量とは**

質量の単位: **kg (キログラム)**. 質量はスカラー.

水 1 リットルの質量は 1kg. 1 円玉の質量は  $1\text{g}=0.001 \text{ kg}$ .

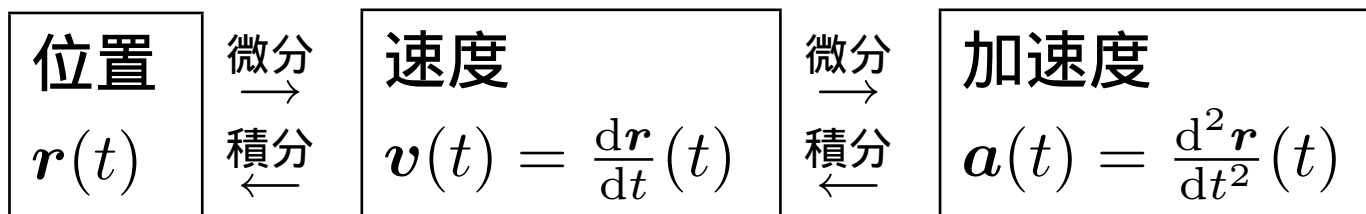
基本ベクトル  $i, j, k$  を使って  $F(t) = F_1(t)i + F_2(t)j + F_3(t)k$  と書くと

$$m \frac{d^2 x}{dt^2}(t) = F_1(t), \quad (110)$$

$$m \frac{d^2 y}{dt^2}(t) = F_2(t), \quad (111)$$

$$m \frac{d^2 z}{dt^2}(t) = F_3(t). \quad (112)$$

## きょうのメッセージ 2



64

成分ごとに微分積分すればおっけー。積分定数 (ベクトル)  $C, D$  は初期条件から決まる。

**例題 15**

質量  $m = 1$  の物体が、力

$$\mathbf{F}(t) = \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \quad (113)$$

のもとで運動している。時刻  $t$  における位置ベクトルを  $\mathbf{r}(t)$  とする。初期条件は

$$\mathbf{r}(0) = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad \frac{d\mathbf{r}}{dt}(0) = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} \quad (114)$$

である。位置ベクトル  $\mathbf{r}(t)$  と、運動の軌跡を求めよう。

66

**quiz 10**

質量  $m = 3$  の物体が, 力

$$\mathbf{F}(t) = \begin{pmatrix} -12 \cos(2t) \\ -6 \sin(2t) \\ 0 \end{pmatrix} \quad (115)$$

を受けて運動している. 初期条件を速度  $\frac{d\mathbf{r}}{dt}(0) = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$  とする. 最も遅く動いている時刻とその速さを求めよう.

67

数検団体受験受付中です!

明日までです. 1-508 に置いてある郵便振替用紙で郵便局に申し込むだけ. 詳しい案内と過去問 1-508 にあります.

全体	目次	前回	次回	略解
----	----	----	----	----